



ばく通信

No. 1 6



2024. 6 月

特定非営利活動法人 発達障害児応援団 NPOばく

NPOばくを開設して17年。支援をした子ども達は210名。「入室希望者が多いから入れない」という噂が流れているとのことですが、入室希望の方はご連絡ください。お待ちしております。ご待ちいただくこともあります。指導枠が空きましたらご連絡します。

ばくに来る子ども達には、様々な発達凸凹があります。学校でつらい経験をする子ども達も多いです。私達は彼らが自分のよさに気づき、得意な事を伸ばしてほしいと願い ①学習支援事業 ②発達相談事業 ③その他の事業を行っています。時々卒業生から、うれしいお知らせが届きます。その一部をご紹介します（ご本人の了解を得ております）。

Aさん（美容師）LD…小学校時代は文字や図形を書くのがとても苦手。自分ができないことを人に知られるのを嫌がっていました。しかし、私立中学に進学後は、自ら、できることやできないことを学校に伝えて配慮を求めました。聞いて覚える方が得意だという特徴を生かして、美容師としてキャリアをつみあげています。大切なことは歌にしてスマホにいれて覚えようとしていた姿が印象に残っています。現在は結婚し、もうすぐママになります。

学習支援事業

ばくは指導担当と相談担当がペアになって個別の指導・支援をしております。つまずきの背景要因を分析し、その子が“気持ちよくやれる課題”と“ちょっと頑張ればやれる課題”そして“お楽しみの課題”を用意して、学習に取り組む土台を作っていきます。毎週同じような課題をやり、それを価値づけることで（まじめにやる事は一番大事。それができるあなたは素敵）、勤勉性を身につけていきます。その過程に寄り添っていくのがばくかなと思います。そして、私達は、子ども達のつまずきと変化の道筋につきあい、様々な発見と感動を経験しています。

Bさん（低学年～）

自分の好きな恐竜や生物の話題を流暢に話すBさん。主語一述語が整っており、論理的に話すことができます。好奇心も旺盛で専門的なことばが使われている本も自ら進んで読もうとします。しかし、書く課題になると途端に嫌がります。その一方で線を描くことや単語を書き写すことは嫌がりません。では何が彼に文章を書くことをためらわせるのでしょうか？

指導している中で分かったこと…“文字を音から思い出すのに苦戦している”“手先の不器用さ”“書き言葉のアウトプット時には助詞・助動詞が使えていない”…これらを総合すると、文字の想起と文章の構成にワーキングメモリを使用しながら書こうとすると、スピードが落ちたり、うまくいかないと感じたりするのではないかと考えました。

低学年段階では音声入力等 ICTを活用して文章を書くということは一般的ではありません。そこで指導者が作った助詞・助動詞のカードに加え、自分で書いた名詞カードを動かして、作文する課題を行うと、面白がって取り組んでいくことができ、その文章を書き写すこともできました。文を作ること自体を面白がり、遊ぶように文をいじっていくうちに「これ面白い！」と拡張していき、それが読書・作文（インプット・アウトプット）の動機付けにつながっているように感じています。

Cさん（低学年～）

入室当初は、机の下にもぐったり、プリントを破ったり等、天邪鬼な言動が多かったCさん。今では素直に気持ちをことばで伝えてくれることが増えました。文句を言いつつも、指導者との約束

を守ろうと頑張っています。

しかし、家庭ではイライラのコントロールが難しく、母親の疲労感が大きいので、父親をキーパーソンにした関わり方を提案しました。父親を交えた指導（言葉のやり取りのあるゲーム等）を取り入れたことで、父と子の関係に変化がみられるようになりました。父に対してプラスの感情が少なかったCさんが父とのやり取りを嬉しそうに伝えてくれるようになり、その話を父親が聞くことで、よい循環が生まれてきました。

Dさん（小2～小6）

「話す」「書く」が苦手だったDさんの6年生での目標は表現力を育てることでした。毎回「スピーチタイム」を入れ、彼のことばを指導者がメモを取り、視覚化して、それをもとに話すという方法から、次はDさんが自分でメモをとってまとめて話す方法に、そして、時間設定して短い時間で話をまとめるということができるようになりました。この積み重ねが、中学受験の小論文や面接にも生かされたとのこと。最後の指導の時間に、多くの指導の感想を聞くと、自分の好きなことを話すことを通して、自分に自信が持てたという内容の感想文を書いてくれました。

指導担当として、子どもが興味を持って意欲的に取り組める課題を考えることに頭を悩ませ奮闘しています。好きなことが必ずしも活用できるとは限りません。また、学年や課題が同じであっても、同じ教材が使えるかということ、やはり、一人ひとりの特性が違うので、その子に合うように工夫する必要があります。しかし、Dさんの指導では彼の趣味が課題設定に役立ちました。Dさんとの5年間でふりかえり、「好きこそものの上手なれ」ということばしみじみ実感しました。

発達相談事業

保護者やご本人の困り感を伺い、カウンセリングや情報提供をしています。また、医療機関等の紹介で知能検査をとり、報告書を作成しています。申し込みから検査実施までの待ち時間が短いことや具体的な関わり方や学習方法を提案することができるのでご依頼が増えております。

その他の事業

講師派遣や勉強会だけでなく“若手支援職応援企画”を始めました。本を紹介したり、別室で指導を見学したりすることを通して、支援者のスキルアップを目指しています。また、多くの雑務を手伝ってもらいながら守秘義務等の支援職の倫理についても学んでもらっています。

Eさん（公認心理師 相談員）～多くの取り組みを見せてもらい分かったこと～

- ①学習支援は学び方を学ばせること、SSTは入室から帰りまでの中に自然に取入れられていること等、自分の相談活動に生かすことができました。
- ②知能検査を隣の部屋で見せてもらいました。「親が検査を勝手に申し込んだ」と不機嫌そうに言っていた高校生。検査者のことばだけで、穏やかなことばに変わっていく。自分のマイナス面を大切に思えるきっかけに繋がっていく姿を見せてもらいました。検査する意味が少しわかったように思います。

★多くの活動には皆様からの賛助会費が大いに役立っております。応援よろしく申し上げます。

静岡県静岡市駿河区大和2丁目6番5号 東京堂ビル305号

電話・FAX：054-266-5616（火～金曜日 15時～19時30分）

賛助会費振込先：郵便口座番号 00810-6-134767 発達障害児応援団NPOばく